

# のびゆく長崎っ子 76

今号の  
内容

- ・第20回広報紙コンクール
- ・活動事例発表会
- ・九子連長崎大会
- ・広報啓発キャンペーン
- ・子どもゆめフェスティバル '13
- ・編集後記

## 第20回長崎市青少年育成連絡協議会 広報紙コンクール



▲子どもゆめ体験の参加者による活動報告



▲大久保少年センター所長による指導助言



▲受賞されたみなさん



▲講評



▲作品に見入る参加者

第二〇回広報紙コンクールで次の育成協の皆さんが表彰されました。おめでとうございませう。

👑 グランプリ  
「ほうとおさん」

👑 準グランプリ  
女の都小学校区青少年育成協議会  
「こだんはら」

👑 「育成協だより」  
大浦中学校区青少年育成協議会

👑 ベスト記事賞  
桜馬場中学校区青少年育成協議会

👑 「帆船の風」  
川平小学校区青少年育成協議会

👑 ベスト写真賞  
「かっぱ」  
江平中学校区青少年育成協議会

👑 ベストレイアウト賞  
「こんぴらさん」  
片淵中学校区青少年育成協議会

👑 会長賞  
「育成協だより」  
深堀中学校区青少年育成協議会

👑 こどもみらい課長賞  
「青少年育成協議会だより」  
香焼中学校区青少年育成協議会

今年度は十八の育成協からエントリーがありました。  
前年度、「かぐら」がグランプリを受賞した見中学校区青少年育成協議会には、今年度の審査員に加わっていただきました。



## 平成25年度 青少年育成協議会活動事例発表会

平成26年2月15日(土)、平成25年度青少年育成協議会活動事例発表会が開催されました。茂木中学校区青少年育成協議会、福田中学校区青少年育成協議会、土井首中学校区青少年育成協議会から、日頃の活動について熱心な発表が行われました。また、昨年7月、長崎ゆめ体験に参加した中学生による活動報告も行われました。(ゆめ体験については前号に記事掲載。)

3つの育成協の活動発表の概要についてご紹介します。

### 茂木中学校区青少年育成協議会 会長 城下 季子

当育成協では年間12回ほどの活動を行っています。

活動全てをご紹介したいのですが、その中の一つ、茂木育成協の一大イベントである、「新春茂木ロードレース大会」を紹介いたします。今年で26回目を迎える大会です。毎年1月の開催のため、天候を心配しながらの開催となっています。毎年出場者が増え、今年は350名を超えるエントリーがありました。全員元気に完走することが出来ました。小学1年生は保護者と手をつないでの走りです。

小学1・2年は600m、3年800m、4年以上1000m、中学女子2100m、男子3000m、一般1750mと5000mの二種類と年齢に合わせた距離での走りとなります。茂木小中の他に日吉小中・南小中・南部アスリートクラブ・長崎南リトルリーグと毎年出場して下さいます。遠くは鳴見台小・為石小・古賀小・西浦上中など8校からのエントリーがありました。子どもたちの安全のために、小中の保護者80名と交通安全協会茂木支部の皆さんに、交通指導員として誘導をお願いしています。1位～5位までは賞状と図書券。全選手には完走賞とクリアファイルを渡しています。

走り終えた後は、「ぜんざい」です。今回は450食用意しましたが完食でした。

多くの方々の協力のお陰で毎回怪我もなく盛会のうちに終了することが出来ています。

次年度も様々な行事を計画し、スタッフ一丸となり子どもたちの育成に関わって行きたいと思っています。



### 福田中学校区青少年育成協議会

事務局長 加藤 由美子

福田中育成協は昭和45年4月1日に設立され、福田っ子の健全育成を目的に、子どもたちが成長する過程で色々な経験を経て、生きる力を身につけていける、そんな機会を提供できればという思いで活動してきました。

しかし時代とともに子どもたちの置かれる環境や大人の意識に変化が起きました。そして今年度、当会では2つの大きな壁にぶつかりました。

まず第1に組織の要となる育成協会長の選出、そして第2にメイン活動となる夏祭り開催危機。共通する解決のキーワードは、活動に理解があること、地域の各団体との連携でした。

活動の基盤となる地域の要となる自治会連合会に自治会長さんの力が必要だと懇願しました。残念ながら多くの任務を担う自治会長さんに会長就任は頂けませんでした。育成協副会長に1名就任して下さり、自治会との大きなパイプができました。

夏祭りに関しては、開催規模が大きくなってしまったため安全面を問われ、スポンサーとなる地域密着型の企業が減り資金不足、また運営人員の不足という事態にありました。

運営協力はできないが開催はしてほしい…。そんな傾向を感じ、当会のメンバーの心はくじけそうでした。でもその思いを吹き飛ばしてくれたのは子どもたちの声と笑顔でした。

何度も協議を重ね、顧問をはじめ自治会長、地域の有識者の方に相談とお願いに何度も足を運んだ結果、主催・共催・後援、運営実行委員会の組織、資金源の3つの見直しができ大きく前進しました。

活動は子どもたちのため!大人の都合で左右されてはいけないと初心に戻り、良いことだけではなく現状を明確に伝える事によって思いが通じ、多方面から知恵と勇気を頂いた1年となりました。

